

緑の相談所だより

No.90

発行 2004年10月1日 編集 財団法人旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

講習会の お知らせ!!

「冬に向けての庭木の管理」

日 時 10月10日(日)
午後 1:30~3:30
講 師 緑の相談所
相談員 伊藤 征夫
定 員 50名

「冬の花と観葉植物の室内管理」

日 時 11月14日(日)
午後 1:30~3:30
講 師 緑の相談所
相談員 佐藤 吉光
定 員 50名

「冬へ向けての洋ラン管理」

日 時 10月24日(日)
午後 1:30~3:30
講 師 旭川蘭友会
会長 笠原 幸三
定 員 50名

「植物を育てる基礎知識」

日 時 11月28日(日)
午後 1:30~3:30
講 師 緑の相談所
相談員 伊藤 征夫
定 員 50名



お申込み・お問い合わせは ☎ (0166) 65-5553 緑の相談所まで。お気軽お電話ください。

花言葉

10月の声とともに冬将軍間近、秋終盤の旭川の気候ですが、戸外の花は朝夕の冷え込みにも負けず最後の花の競演を見せてくれます。

今回は旭川の短い秋を彩る草花や木々の花言葉を見てみましょう。

しゅうめいぎく (秋明菊)

全国に自生していますが、古くは中国から渡ってきて野生化したキンポウゲ科アネモネ属の多年草です。市内でも秋の花としてよくご家庭で見受けられます。

基本的な花色は淡紅紫色で、どこか控えめで冷めていく愛のようにさびしい印象ですが、秋の庭のアクセントや主役として大株になると力強く、実に見事です。

最近では品種改良されて花色も豊富にあり楽しい宿根草のひとつです。

しゅうめいぎくの花言葉 「薄れゆく愛」



ニシキギ

漢字で錦木と書きます。千島列島、日本、中国に自生するニシキギ科ニシキギ属の落葉低木でマユミ、マサキなど同属の植物です。枝に3から5列のコルク質の翼をつけることから学名にはアラッサ種翼のあるという意味もあります。

秋の紅葉が見事なことから、ニシキギは秋の季語とされ、公園やご家庭にも植えられています。

ニシキギの花言葉 「あなたの魅力を心に刻む」



コルチカム

机の上に置いても花が咲く球根として、秋にはよく話題になる花です。クロッカスと間違えられますが、クロッカスはメシベが3本なのに対して、コルチカムは6本なので見分けは簡単です。

ヨーロッパ、北アメリカ、アジア西部から中部にかけて自生が見られるユリ科コルキクム属の球根植物です。和名でイヌサフラン、中国名で秋水仙、英語でオートム・クロッカス、とかメドー・サフランと言われています。また、ミステリアとかワンダー・バルブと呼ばれることもあります。水や肥料を吸わないで見事な花を咲かせることからこのように呼ばれたのでしょうか。

土が要らないように思いますが、本当は土に植えてほしいのです。花が終わった球根は出来るだけ早く土に植えて球根の充実を計ってあげましょう。

コルチカムの花言葉 「華美・華麗」





❖十月の園芸作業❖



1 草花・球根

- ◆室内の窓辺で育てているシクラメン、ペコニア、サイネリヤなどに毎日水やりをし、低温が目立つ場合は乾きぎみに管理しましょう。肥料は週1回1000~1500倍の液肥を与えましょう。
- ◆ハダニ、オンシツコナジラミを戸外から室内に持ち込むと急に繁殖するので十分注意しましょう。
- ◆アキランサス、インパチェンスなど鉢上げした草花類は霜予報に注意して管理しましょう。
- ◆宿根草の株分けと植え替えは9月に続いておこないましょ。
- ◆チューリップなど秋植え球根の定植時期ですので植え込む深さや施肥量などに注意しましょう。

2 花木類

- ◆クチナシ花芽は新梢の先にできるが低温だと花芽ができないので今月早々に入室し居間などの暖かい室内で管理しましょう。水やりは毎日行い、肥料もほしがるので1500倍の液肥を週1回は与えましょう。
- ◆ポインセチアは居間など明るい場所で育てている場合は花芽ができないので、夕方5時から朝方8時までダンボールなどで覆って管理しましょう。

3 観葉植物

- ◆ポトスなど室内で管理している場合は水と肥料を今までどおり与え、シリンジ(葉面散布)は毎日行いましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ◆クジャクサボテンは初旬に入室し、室内の日当たりのよい窓辺に置き、4~5日に一回の水やりと1000倍の液肥を週一回与えましょう。

5 洋ラン

- ◆シンビジウムは日当たりのよい霜よけの下で、水やりは毎日行いましょう。肥料は与えないこと。ノビル系のデンドロビウムも同じ様に管理する。



らん ぞう 胆



❖十一月の園芸作業❖



1 草花・球根

- ◆ゼラニウムなど花が開花中のものは毎日水やりをしますが、花が咲いていないものは週2~3回でよいでしょう。
- ◆オンシツコナジラミ、アブラムシの有無をよく点検して、一匹でもいたらただちに駆除しましょう。
- ◆シクラメンなど、病気の発生を防ぐためベンレートなどの殺菌剤を週1回程度続けましょう。
- ◆クンシランは玄関、廊下、無暖房の室内で管理していると花芽が出てくるので伸びてきたら居間に移し水と肥料を与えましょう。
- ◆アマリリスの葉が茶褐色になっているものは無暖房の室内で、球根を凍らせないように管理しましょう

2 花木類

- ◆アザレアは戸外で育ててきたものは上旬に玄関、廊下、無暖房の室内に移し、水やりは週3回程度、肥料は蕾のふくらみが目立ってきたら1500倍の液肥を週一回程度与えましょう。
- ◆ポインセチアは暖かい窓辺に置いて育て、水やりは花包が完全に伸び切れるまで毎日与えましょう。肥料は1500倍の液肥を週1~2回与えましょう鉢の移動はしないようにしましょう。

3 観葉植物

- ◆素焼き鉢でよく茂って葉数が多い植物は毎日午前中にたっぷり水やりしましょう。プラスチックの鉢は週2~3回与え、シリンジは毎日数回行いましょう

4 多肉植物・サボテン類

- ◆シャコバサボテンは玄関や廊下など涼しいところに置き、蕾が小さいと環境の変化で蕾が落ちる性質があるので注意しましょう。

5 洋ラン

- ◆シンビジウムは日当たりのよい無暖房の室内の窓辺に置き水やりは10日に一回程度、肥料は与えないノビル系のデンドロビウムも同じ様に管理する。



さん かん 山茶花

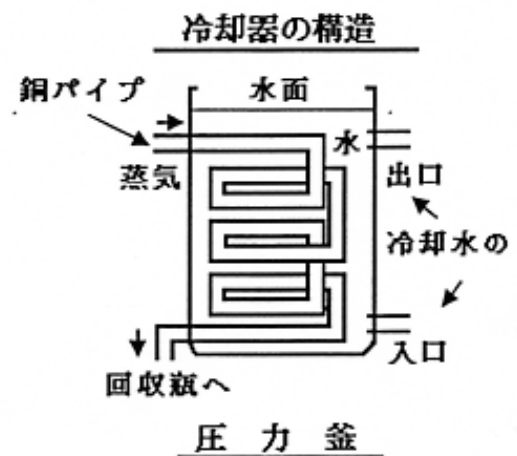
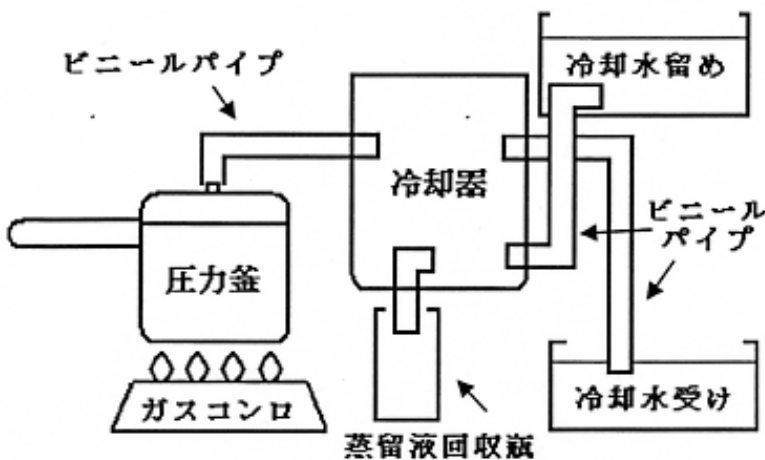
ラベンダー精油の採油の仕方

近頃は、どこの家の花壇にも1株くらいはラベンダーが植えられ、ライトブルーのいわゆるラベンダー色と独特の香りを楽しまれていることと思います。

このラベンダーはハーブの一種で昔から精神安定、胃痛、消化促進、殺菌作用、防腐等の効果が知られています。これはラベンダーに含まれている酢酸リナリル、リナロール、シネロール等によるものと言われています。この効果を利用する為に私達は花や葉を床にばら撒いたり、ポプリ等香料に使ったり葉をシチューに入れたり、ヴィネガーを作ってサラダに使うのが一般的だと思います。このラベンダーのエキスを取り出す事が出来たらもっと活用範囲を広げることが出来るはずです。身の回りにあるものを使ってラベンダーのエキス：精油（エッセンシャルオイル）を取り出す実験を試みましたのでその概要を紹介したいと思います。

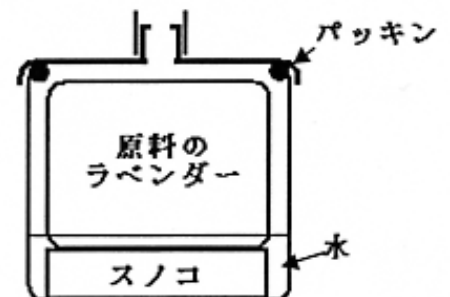
1. 装置

蒸留釜(圧力釜) 冷却器 蒸留液回収瓶 冷却水 を図のようにセットする。



2. 原料の充填

圧力釜の底のスノコ板の上まで水をいれその上に乾燥させたラベンダー(実と茎)を容器の上まで入れて蓋をする。この時ラベンダーが圧力釜のパッキンに挟まないように注意する。



3. 蒸留

2のようにして充填して、水蒸気が出始めて約20分間で蒸留完了。約200cc程度の蒸留液が回収出来る。この様にして蒸留を繰り返し蒸留液回収瓶がいっぱいになるか、原料が無くなるまで繰り返す。

4. 精油の回収

蒸留液回収瓶の上部に出た精油をスポイトで回収するのですが、量が非常に少量の為、精油の溜まる部分が瓶の口の様に細長い方がスポイトで回収しやすい。



5. 原料と精油の量

ラベンダーの精油は原料5kgに対して30ccと非常に歩溜まりは悪いが取れた精油の香りはとても良いものです。庭にあるラベンダーの切り戻しの時に花柄や茎、葉を集め乾燥しておき蒸留してみても如何でしょうか。

☆詳細は旭川市緑の相談所 相談員 伊藤 征夫 まで。